

大内中 学校通信 紺碧

真岡市立大内中学校 Tel 0285-82-2541
〒321-4405 真岡市飯貝1159
HP <http://www.moka-tcg.ed.jp/ouchihsc>



大内中学校・
キャラクター
『モウモカウ』

真岡市立大内中学校
令和5年度 第10号
令和6年2月発行

学校教育目標

- 1 意欲をもって学習する生徒
- 2 健康で実践力に富む生徒
- 3 豊かな心情をもつ生徒
- 4 すすんで働く生徒

渋沢栄一氏と柳林農社

校長 上野 光男

令和6年が始まり、早や2か月になろうとしています。2月2日には立志式が行われ、2年生も将来の夢や目標に向けて決意を新たにしたいと思っています。

さて、御存じのように、令和3年に放映されたNHK大河ドラマ「青天を衝け」の主人公は、渋沢栄一氏です。令和6年7月3日から新1万円札に肖像が使われることになりました。「近代日本経済の父」、「日本資本主義の父」といわれる栄一氏ですが、「渋沢栄一記念財団」のホームページによると、その生涯は以下のように記されています。

渋沢栄一は、1840（天保11）年2月13日、現在の埼玉県深谷市血洗島の農家に生まれました。家業の畑作、藍玉（あいだま）の製造・販売、養蚕を手伝う一方、幼い頃から父に学問の手解きを受け、従兄弟の尾高惇忠から本格的に「論語」などを学びます。「尊王攘夷」思想の影響を受けた栄一氏や従兄たちは、高崎城乗っ取りの計画を立てましたが中止し、京都へ向かいます。

郷里を離れた栄一は一橋（徳川）慶喜に仕えることになり、一橋家の家政の改善などに実力を発揮し、次第に認められていきます。栄一は27歳の時、15代将軍となった徳川慶喜の実弟・後の水戸藩主、徳川昭武に随行しパリの万国博覧会を見学するほか欧州諸国の実情を見聞し、先進諸国の社会の内情に広く通ずることができました。明治維新となり欧州から帰国した栄一は、「商法会所」を静岡に設立、その後明治政府に招かれ大蔵省の一員として新しい国づくりに深く関わります。

1873（明治6）年に大蔵省を辞した後、栄一は一民間経済人として活動しました。そのスタートは「第一国立銀行」の総監役（後に頭取）でした。栄一は、第一国立銀行を拠点に株式会社組織による企業の創設・育成に力を入れ、また、「道德経済合一説」を説き続け、生涯に約500もの企業に関わったといわれています。そのほか、栄一は、約600の教育機関・社会公共業の支援並びに民間外交に尽力し、多くの人々に惜しまれながら1931（昭和6）年11月11日91歳の生涯を閉じました。

このように日本経済の発展に多大な功績を残した栄一氏ですが、実は真岡市とも深い関係があります。明治7年、栄一氏が34歳のときに、当時の芳賀郡柳林村（現在の真岡市の中村地区にある柳林、真岡市自然教育センターの近辺）に、「柳林（りゅうりん）農社」を設立したのです。明治の初め頃、柳林村を含め鬼怒川の東側一帯は養蚕に適した土地として注目されていました。また、柳林村には、江戸時代の初め頃に開設された河岸（かし：川を利用した水運の港）がありました。川を利用した水運は、陸上交通が十分に発達していなかった江戸時代に、経済の中心であった年貢米をはじめ、味噌、炭、薪など日常消費物資の輸送に大きな役割を果たしていました。

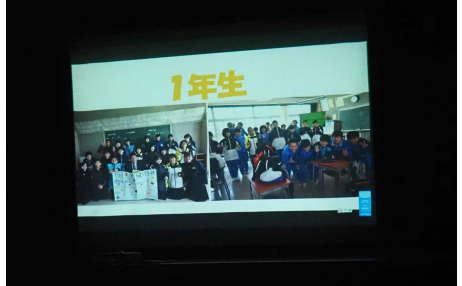
ここに目を付けた栄一氏は、親戚を中心に6名で出資し、養蚕や蚕種（蚕の卵）の製造、製茶を目的とした農業会社である「柳林農社」を設立しました。柳林農社の規模ですが、設立時で12町1反、明治13年には17町3反もの広さがありました。1町は約1ヘクタールであり、平均的な小学校の校庭1つ分ほどの広さになります。最盛期には、小学校17校分の校庭ほどの広大な敷地に、桑園や茶園をつくり事業を展開していました。蚕の飼育などを行う蚕室も大きく、幅が60メートルもある2階建ての建物でした。常時雇用者は20名程度でしたが、養蚕の繁忙期には追加で30名程を雇っていました。

しかし、生糸や蚕種の価格が下がったことや世の中全体の不景気もあり、柳林農社は思うような利益を上げることができず、明治20年に廃業します。わずか13年の短い間でしたが、真岡の地で今の時代につながる日本の近代化の試みがなされていたことに、感動しました。渋沢栄一氏との距離も一気に縮まった気がします。柳林の地にあった柳林農社に思いをはせながら、新紙幣の発行を楽しみに待ちたいと思います。

【立志式・立志記念講演 2/2（金）】



【3年生を送る会 2/15（木）】



※学校のホームページではカラー版を御覧いただけます。



